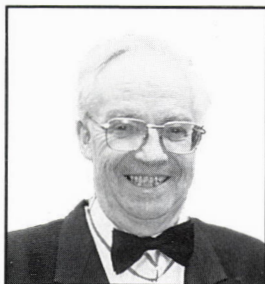


名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 Paul Lacombe 君

日本鉄鋼協会名誉会員Paul Lacombe博士は1997年12月18日11時10分ご逝去されました。享年87才でした。葬儀は12月23日パリ南郊の教会で、厳かに執り行われました。

氏は1911年7月11日フランス・リール市で生まれ、1933年リール国立高等化学学校を卒業後、パリ大学で理学博士号を取得されました。1945年パリ大学冶金学科主任、1947年ヴィトリ－化学冶金研究所・主任研究員、ついで1952年から20年間パリ高等鉱山大学校冶金学教授および同校冶金研究所所長を勤められました。この間、国立サクレ原子力研究所原子力材料教授、パリ大学オルセー理学部教授等も兼務されました。さらに1972年パリ南大学オルセー・センター教授兼国立科学研究センター・177研究所長に就任され、1980年パリ南大学名誉教授になられると共にフランス科学アカデミー会員に推挙されました。その後引き続き科学アカデミー終身書記、副会長、会長を歴任されました。

氏はこの間、教育への功勞、冶金学、化学研究上の功績、国際交流への貢献により教育功勞勲章、レジョン・ドヌール・オフィシエ勲章、国家功勞オフィシエ勲章をはじめ世界の学会、大学から賞を受けられました。さらに、氏がフランス金属学会会長であった1965年、本会の名誉会員になられました。また、日本国から勳三等旭日中授章が授与されています。

氏の教育への功勞は1000人を超える子弟から約200人の博士を誕生させたことです。この中に日本人10人余が含まれています。冶金学上の功績は1932年から20年間はアルミとその合金開発、著名なラコンプ液による金属組織研究、金属の変形機構研究であり、1950年からは原子力材料の開発、ラジオアイソトープをもちいた世界初の金属拡散研究、拡散に関連した鉄の割れ防止、割れにくい鋳鋼、水素割れ防止、高温酸化の研究であり、1970年以降はチタンとその合金など宇宙航空材料開発、電磁材料の開発等と枚挙にいとまがありません。

また、氏の国際交流への貢献としては大戦後の困難な時代から世界の研究者、留学生を集め、指導、共同研究をされました。これらの貢献によりフランス以外の六大学から名誉博士号を受けられ、三カ国のアカデミー会員に選出されました。日本からは1957年以降20人余の研究者、留学生が指導をうけました。来日も8回に及びその度毎に、本会等でユーモアたっぷりの講演をされ、満場を湧かせておられました。常々母国同様に日本が好きだとおっしゃっており、日本文化の造詣も深く、浮世絵の収集もなさっていました。

今日、技術革新が叫ばれる中、氏の見識が必要とされる時に、お別れを余儀なくされることになりました。しかし氏が残された大きな功績は指導を受けた多くの人々によって、必ずや受け継がれていくでしょう。

名誉会員Paul Lacombe博士の偉業を偲び、会員一同心から追悼の意を捧げ、ご冥福をお祈りいたします。

1997年12月

社団法人日本鉄鋼協会 会長 野田 忠吉